

伝承

第二十七号

現代のテキストでは、次のように漢字とひらがなを交えて書き表される場合が多いかと思えます。

『万葉集』の国際性

奈良県立万葉文化館

井上さやか

現在の明日香村は、近世日本の里山の暮らしを彷彿させるのどかな風景で知られ、訪れる人の郷愁を誘います。しかし、飛鳥時代には、歴代の天皇宮が営まれた政治や文化の中心地でした。

古代の日本語は、世界の多くの言語と同じように、独自の文字を持たず口承で形成されました。当時はまだひらがなやカタカナが発明されていなかったため、外国語の文字であった漢字を利用して書き記されました。万葉歌も、本来はすべて漢字で書かれています。例えば次のような書き方です。

飛鳥明日香能里乎置而伊奈婆君之當者不所見香聞安武

飛鳥の明日香の里を置きて去なば君があたりは見えずかもあらむ(巻一・七八番歌)

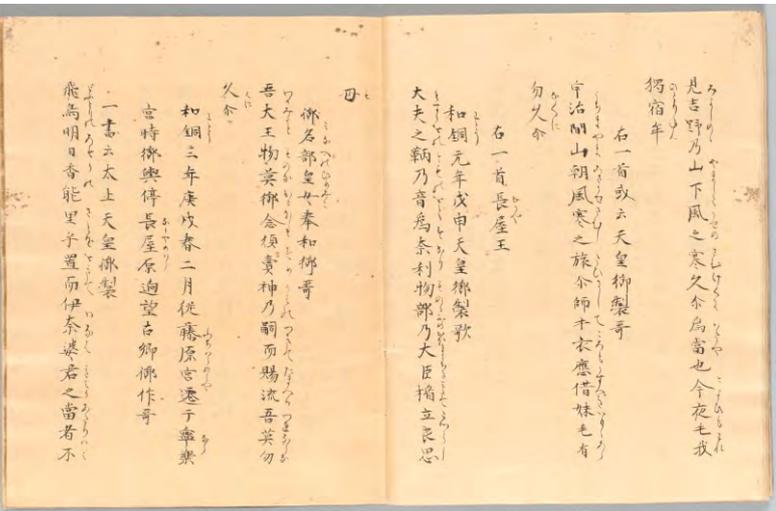
この歌の冒頭部は、「飛鳥明日香」と書いてトブトリ(ノ)アスカと読めます。現代では「飛鳥」も「明日香」もアスカと読むことに違和感はないかと思いますが、本来「飛」字にも「鳥」字にも、アヤスヤカの音訓はありません。それなのに「飛鳥」という文字列になった途端、アスカと読めるのはなぜなのか。それは、トブトリ(ノ)アスカという歌の表現が、決まり文句のように定着して初めて可能となりました。トブトリといえはアスカの地が連想されるまでに共通認識が形成されていなければ、「飛鳥」という地名表記は成り立たなかったとみられます。ちなみに『万葉集』では地名アスカは「明日香」と

書く場合が多いですが、『古事記』や『日本書紀』では「飛鳥」と書かれています。どちらも間違っているのではなく、どちらが古いともいえません。

また、この歌には「能」「乎」や「伊奈婆」「香聞安良武」など、後世のひらがなのように一字で一音を記す箇所もあれば、漢文の語順を採用して「不所見」と記す箇所もあります。

一方、『万葉集』において歌の前に書かれる題詞や左側に書かれる左注は、原則として古代中国語に基づく漢文体で書かれました。同時代の書物である『古事記』や『日本書紀』も、漢文体だけでなく漢文に基づきながらも古代日本語を書き記すために変容した倭文体や、一字一音で記す部分などがあります。

こうした古代の文献は書き写されることで現代に伝わっており奈良時代の原本は現存していませんが、当時の生々しい筆致は木簡などで知ることができます。



「飛鳥」と書いてアスカと読ませた現存最古の木簡は、万葉文化館の建設に際して発見された日本初の貨幣といわれる富本銭をつくっていた飛鳥池遺跡から出土しています。最古の「天皇」木簡も同様です。

富本銭も国産の書物も、古代東アジアの国際社会の中で中央集権国家を目指していた天武天皇にとって、重要な施策のひとつだったと考えられます。

万葉集 (写本) 江戸時代 奈良県立万葉文化館蔵

やくもこと

八雲琴

夏休みの学童保育の

こどもたちと八雲琴

八雲琴代表 杉藤榮子

四年間のコロナ禍でお稽古を休止していたり、小学校で八雲琴の演奏や、練習の機会が減ったりしたこともあり、

「八雲琴を習ってくれる小学生がいない」

この危機的な現状をなんとかしたいと私たちは考えていました。そこで夏休みに小学校の学童保育の児童に八雲琴にまず触れてもらうことにしました。

教育委員会の方や学童保育の先生達の協力で八月七日、二十一日、三十日の三回実施しました。

私たちの演奏の後八雲琴の説明をして、八雲琴を弾き始める時、こどもたちは暑い中、一生懸命練習してくれました。一回目、二回目、三回目と続くにつれて練習を楽しみにして来ていることがわかりました。

二学期に入り、土曜日の稽古に参加してくれるこどもたちもいて嬉しく思います。

これからこどもたちに八雲琴に触れてもらう機会を作っていきたいと思っています。

明日香小学校の

参加児童の感想文(抜粋)

一年生 いしだかずま

たのしかった。ならいたい。たのしかった。またならいたい。

一年生 窪田愛花

はじめてだったけど、かんとんで、おことをならいたくなりました。

二年生 中井はじめ

むずかしい。

二年生 松本颯来

みじかいじかんだったけど、いろんなきよくがひけました。さいしょは「さくらさくら」今日は「虫のこえ」をしました。またできるとうれいす。今日はありがとうございました。今日のことはいつものばいいじょう、たのしかったです。

ありがとうございました。

二年生 堀部花琳

おねえちゃんといっしょにおことができて、うれしかったです。すぐれたのしかったです。おことをならいたいです。おことの「さくらと虫のこえ」ができてたのしかった。みんなといっしょにできてよかったです。

三年生 石田 陸

ぼくは2回しかやれなかったけれど、すごく楽しかったです。

五年生 山本あいか

二人のお姉さんが、笑顔で教えてくれて、すごくうれしかったです。「さくらさくら」と「虫の声」をほとんどひけて、すごくうれしかったです。少し不安だったけど、フォローしてくれてうれしかった。土曜日も習いに行きたいなと思いました。

五年生 皆己奈緒

私は、わからないことがあったら、元気よく明るく教えてくれて、とても会話がふえたと、また習いたいなと思いました。そして、琴をもっと大好きになりました。琴は歴史が深いんだ



な、と思いました。私は家で、ピアノやギターやドラムの音になるマットで、ひまな時はひいたりしています。またテニスがない時は習いに行きたいと思えます。そして、教えてくださり、ありがとうございました。

令和五年度聖徳中学校総合学習 「明日香学」の中学三年生より

堀江真由

私が初めて八雲琴にふれたのは小学校のクラブに入ったときでした。その時は八雲琴の存在すら知りませんでした。見たときは二本の絃で音がでるのかなと思っていましたが、弾いてみると、ものすごくたくさんのきれいな音が鳴り驚きました。そして楽譜を渡されたときはカタカナばかりで、難しいかなと思いましたが、先生方の指導のもと、曲が弾けるようになった時はうれしい気持ちになりました。



定例公演(県立万葉文化館) 令和5年6月17日

それからもたくさんさんの曲を演奏できるようになり、舞台上で初めて上がったときは緊張とともに、どんな響きになるのかという楽しさもありました。演奏の景色は今でも忘れられません。

最後に二年間八雲琴を教えて下さりありがとうございました。

これから八雲琴を習いに行くので御指導よろしくお願います。

福井萌桃

拝啓 厳しい寒さの中、冬のひだまりがことのほか暖かく感じられる歳末の候、いかがお過ごしですか。

昨年に引き続き、本年度もご指導いただきありがとうございます。初めの頃は楽譜を追うことに精一杯で、まともに曲を弾くことができませんでした。

しかしこの二年間で詩を唄いながら弾くことができるようになりまし。これもひとえに先生方の温かいご指導の賜物と心から感謝いたします。

見識のない状態で始めたのでついていけないのか、とても心配になったこともありまし。独



明日香村文化祭芸能大会
令和5年12月22日

特な弾き方の記号には最後まで頭を悩ませることになりました。楽譜が読めないのは最初からの悩みで、マとハの区別がつかず、音程で考えていました。何度も弾くことで、楽譜を覚えることができたので、最終的には、ほぼ完璧に弾けるようになりました。あの時の達成感はい言わせない。あの時の達成感はい言わせない。自分でも成長したなと思えました。

初めてのステージ、緊張しすぎて何も覚えていません。周りの人は弾けるのに、私だけ...。そういうあせりが、私の心の多くを占めました。

最後の舞台、聖中祭での発表はとても心に残っています。

二人だけのステージ、とても心もとなく感じていました。

「始まってしまえば、いつかは終わる。」

真由とそう励まし合いながら、本番を迎えました。発表が終わった後には、この上ない充実感を覚えながら、お互いに称賛し合いました。舞台を降りると、多くの人に褒めていただきました。初めての舞台からは、考えることができなかった光景だったので、本当に嬉しかったです。

先生方にも「良かったよ」と言ってもらえて、頑張ってよかったなと思えました。

最後になりますが、この二年間、優しく時には厳しく、ご指導くださり、ありがとうございます。当初では考えられないほど、楽しく八雲琴を弾くことができるようになりました。

これから、より寒い時期を迎えますが、どうか体にはお気を付けてください。

略儀ながら書中をもって御礼申し上げます。 敬具

令和五年一月十二日

八雲琴の公演予定は、下のQRコードをスマホのカメラで読み取ってご覧ください。





丸三ハシモト株式会社令和5年10月3日

明日香の響き保存会 研修旅行に参加して

丸三ハシモト株式会社

上西美穂

日々何気なく演奏しているお琴の絃が、ほぼ手作業によって作られていることに驚きました。もちろん機械も使用しますが、使っていたとしても、人の手によって調整・修正がされており、完全に機械任せではないのです。そして、絃の染色や検品等の技術面に驚く面も多数ありましたが、今現在、蚕の飼育をしている方が減っている中、化学織

維にすれば音が変わってしまいうため、変わらず蚕の繭から作ってくださっている点や、機械に任せれば効率がよく、人手も少なく済む中、大量生産により、絃を保管する時間が長くなってしまう、劣化してしまうことを避けるため、作る量を調整し、常に新しい絃を提供しようとして、ただ作るだけでなく、その後の使い手のことも考え、一本一本真心を込めて作っていただいていることに、とても感銘を受けました。これから先、改めて職人の方々へ感謝の気持ちを募らせつつ、より一層気持ちを入れて演奏していきたいと思えました。

多賀大社

私たちは八雲琴を演奏する前に、「イザナギ・イザナミ（一礼）、スサノオ・オオクニヌシ・ベンザイテンニヨ・カシマのギ



多賀大賀大社 令和5年10月31日

ゲイテンニヨ（一礼）」と唱え、計三回礼をします。これは「三礼」と呼ばれ、上手に演奏できるように、願いながら行うものなのですが、多賀大社はこの三礼に出てくる神様のうち、イザナギ・イザナミを祀っている多賀神社の総本社であるため、私たちは足を運びました。とても大きく立派な神社ではありましたが、今はイザナギ・イザナミを大々的にお祀りしている時期ではなかったようで、残

念ながらどこにいらっしやるか、見つけることができませんでした。しかしとても穏やかな心地の良い場所であったため、今は奉納演奏することができませんでしたが、また機会があれば、ぜひ奉納演奏をさせていただきますと思います。

明日香村伝承芸能保存会

「定例公演」日程

四・五・六・九・十・十一月の

各土曜日に公演

時間 13時半〜14時15分

万葉朗唱 第二土曜日

(県立万葉文化館玄関前)

練習日・毎月第一木曜日

13時半〜15時半

(中央公民館) 二階研修室

練習の参加は無料です。

八雲琴 第三土曜日

(県立万葉文化館内ロビー)

南無天踊り 第四土曜日

(県立万葉文化館玄関前)

飛鳥蹴鞠 不定期

(高松塚公園・石舞台公園)

あすかけまり 飛鳥蹴鞠

銅 鑼

服部光晴

銅鑼は銅と錫の合金でできています。日本では佛教のお祈りや、船の出航時の合図にも打ち鳴らされます。飛鳥蹴鞠では発足以来「古代の音」について考えてきました。文化協会の先輩方にはほら貝で協力を頂いていましたが、ほら貝は唐代に日本へ伝えられ山岳仏教で山伏が山中で野獣を追い出す為と、魔を避けるために用いられたといわれ、時代的にも差異があるため、飛鳥蹴鞠としては他の「音」を模索することとなり銅鑼を思いつきました。

二〇〇×年七月二十一日、学生時代通学の為乗っていた懐かしの近鉄京都線東寺へ。云うまでもなく東寺の弘法市会場へ。猛暑の中境内には食品、日用品、衣類、瀬戸物、生花など、所狭しと置かれ、多くのお客様で大混雑。暫くしてお目当ての銅鑼を見つけました。宇治市から着



ている古物商で世界各地を渡り歩いては目ぼしいものを買集めているそう。

飛鳥蹴鞠の事を伝えると、それはいいことだと賛同してもらい幾分かお安くしてもらった。その後も彼にはこうして蹴鞠の活動に使っていると伝え、改めて、行くべき舞台へもらわれて良かったと言ってくれました。

銅鑼はその後、我々メンバーと共に旅をしました。扶余文化祭に招かれ渡韓、サッカーが国技のお国柄、蹴鞠は大変好評でした。役場の事情で、団と別行動となった文化協会東謙吉会長と服部、クドレ広場の公演後東先生との珍道中が始まりました。夕食はクドレ広場にほど近い食堂、片言のハンブルで明日香村から来たという店内の皆さんから

「アンニオン アンニオン」と歓迎され、店からあれもこれも

と、料金以上の料理をいただきました。宿はオンドル部屋、ほっこりとした変わった体験でした。

翌日は、扶余バスターミナルから修徳寺へ、飛鳥寺とは姉妹寺院で、飛鳥寺さんの訪問に同行させてもらったこともあり、御住職にもご挨拶申し上げました。境内博物館には飛鳥特設コーナーがあり、飛鳥寺や飛鳥の事が展示してあります。

ソウルへは国鉄虹橋駅から準急・立ち席でソウルへ、途中、世界遺産で有名な水原華城見学の為途中下車、駅前で高齢の女性が日本人と知るや声をかけてこられました。戦前、奈良女高師に在籍していたとかでその後、親切にも華城を案内していただきました。ソウル市内經由仁川・関西空港明日香村と銅鑼を背おって無事帰国しました。

謙吉先生とは、私の高校時代に生物を受講。三年で受験科目に無いクラスで、それを承知でDNAの事を模型を示しながら

飛鳥蹴鞠の公演予定は、下のコードをスマホのカメラで読み取ってご覧ください。



授業を進められました。当時科学の世界で最新情報になっていて、さすがに内職するものが無くなったことでした。先生と蹴鞠では石舞台での初披露、鞠の恩人・信濃蹴鞠の会井澤篤巳氏宅へのお礼の訪問にも御一緒にいただきました。

話を銅鑼に戻し、中国戦国時代、兵士の統率の為太鼓と共に用いられました。

【尉繚子：第十八 勒卒令】によれば兵を統率するためには金・鼓・鈴・旗があり、鼓とは太鼓進軍を、金は銅鑼の事で撤退の為打つ。鈴は伝令のため。旗は振る方向で進軍の方向を指し示す。それぞれ詳細な規則が定められていて、叛けば処刑するとも。飛鳥蹴鞠では中国伝来を意識してこの古文書を詳細に読み解き今後取り入れる予定です。この項漢文体系より引用。



まんようろうしゅう

万葉朗唱

万葉朗唱に出会って

原 映子

私が初めて万葉朗唱に出会ったのは五十代の頃、テレビで古代衣装を着て、額田王に扮した方が、

あかねさす紫の行き標野行き
野守は見ずや君が袖振る

(巻1・20) 額田王

の万葉歌をゆっくりと綺麗に、とてもステキに朗唱されている姿を視聴したときに、
ああ、私も詠ってみたいなあ！
と思いました。

その後、二十数年あまりを経て平成二十七年十月に、阿部山の福本トシコ様より、万葉朗唱へのお誘いを受け、入会させていだいてから八年になります。

福本様は今年二月にお亡くなりになりました。心からお悔やみ申し上げます。

私は今年二月に八十七歳になりました。私にとって、万葉朗唱は生きがいの一つとなっています。

ます。

永年、私は地元の小学校の事務員として、勤めさせていただきましたが、平成五年の文化の日に、表彰状と記念品を頂きました。当時ご健在であった犬養孝先生直筆の色紙を戴きましたことで、この歌が大好きになりました。

明日香川七瀬の淀に住む鳥も

心あれこそ波立てざらめ

(巻7・1366) 作者未詳

その後、朗唱する機会もなく二十年を経て、万葉朗唱に入会し、朗唱の練習をして、明日香村伝承芸能保存会主催の定例公演で、この歌を朗唱できたことは、この上ない喜びでした。

その頃、朝ドラ「まんぶく」の母親役で出演中の松坂慶子さんが館長様とご縁で、万葉文化館へ来られました時に、学芸



薬師寺の「持統桜」の前で



定例公演 令和5年1月5日

員と万葉集についてのトークショーで、「万葉朗唱するときには大きく ゆっくりと、遠くを見て朗唱するのが良いと思います。」と、狂言師の方から教えていただいたことを、お話しされました。それから元々地声が大きかったので、ゆっくりと遠くを見て、朗唱するように心がけているのですが、遠くを見て朗唱するということは歌を覚えなければできないので、なかなか難しいことです。私が暗唱できるのは、次の持ち歌三首です。

明日香川七瀬の淀に住む鳥も

心あれこそ波立てざらめ

(巻7・1366) 作者未詳

巨勢山のつらつら椿つらつらに見つつ思はな巨勢の春野を

(巻1・54) 坂門人足

秋の野に咲きたる花を指折りかき数ふれば七草の花

(巻8・1537) 山上憶良

万葉集を朗唱する前に、意味を理解し、作者の心情にふれ、その人の気持ちになって、朗唱できるように努力しています。一首の歌を、何度も朗唱を重ねることで、次々と自分の持ち歌が増えていくのではないかと思います。

村の芸能大会や定例公演で、私たちの万葉朗唱を見てくださった方々が、万葉朗唱に興味を持ち、明日香村伝承芸能保存会の万葉朗唱に入会してくださることを期待しています。

来年は米寿を迎えますが、定例公演で、しっかりと朗唱することができまようように願っています。

万葉朗唱の公演予定は、下のコードをスマホのカメラで読み取ってご覧ください。



福本トシ子様は万葉朗唱への厚い情熱をお持ちのお方でした。「練習する事が何より大切ですよ」と、何時もお話しされました。私たちはこのお心を引き継ぎたいと、心に誓いました。

ご冥福をお祈り申し上げます

部員一同

たまゆら

大津の皇子残照

古代民俗研究所代表

大森亮尚

奈良市西の京にある薬師寺。法相宗の大本山で、南都七大寺の一寺として有名なお寺ですが、その境内の片隅に休岡若宮社という小さな祠があり、大津皇子を祭神として「伝大津皇子座像」が置かれていたことも古くから知られています。では薬師寺境内になぜ大津皇子が祀られているのでしょうか？

大津の皇子は天武天皇の皇子ですが、母、大田皇女を幼い時に亡くし、同母姉の大伯皇女も少女時代に伊勢神宮に奉仕する伊勢斎宮に選任されて都を離れたので、孤独な少年時代を送っていたのでしょう。それでも風貌たくましく、謙虚で人柄もよい文武両道の皇子となり、漢詩集『懐風藻』にも四首の漢詩と共にその人柄が賛美紹介されています。

ところが朱鳥元年(六八六)九月に父・天武天皇が崩御し、

その葬儀が営まれている最中に大津皇子の謀反が発覚し、十月三日に自宅の詠語田(おさだ・桜井市戒重付近)で死を賜り、夫人の山野辺皇女も髪を振り乱し、素足で大津皇子の後を追いつつ、殉死し、見る者はみな涙を流したと『日本書紀』に記録されています。

『万葉集』にもその時の辞世の歌があり、大津皇子、死を被りし時に、磐余(いわれ)の池の堤にして涙を流して作る歌一首

ももづたふ磐余の池に鳴く鴨を
今日のみ見てや雲隠りなむ

(巻三―四一六)

池に鳴く鴨を最後に見て、自分は死んでいくのかという辞世の歌は今も多くの人の心を揺るがせる、二十四歳という若き皇子の死でした。

人柄のいい皇子が父の葬儀の最中に、なぜ謀反を企てたかについては今も解明されていません。ただ、天武天皇の皇后で、大津皇子の母の妹、大津の叔母にあたる持統天皇にとつて、夫の崩後、自分の息子、草壁皇子に皇位継承させる計画に、もっとも邪魔で目障りな存

在が大津皇子だったので、何らかの裏工作が仕掛けられたのかもかもしれません。

『万葉集』に、大津皇子が密かに姉・大伯皇女に伊勢神宮に来て、帰る時に大伯皇女が詠んだという説明する題詞が付いた歌があり、

我が背子を大和へ遣るとき夜ふけて暁露に我が立ち濡れし

(巻二―一〇五)

久々に逢えた弟を見送り、明け方まで露に濡れながら立ち尽くす、大伯皇女の切なさが見事に表現されています。

父の葬儀中を抜け出して伊勢神宮へ行ったのなら、罪に問われるでしょう。大津は殺される前に一度でも姉に逢っておきたかったのでしょうか。大伯皇女はこの後、伊勢斎宮を解任され都にもどっています。

大津事件の三年後、草壁皇子は即位することなく亡くなります。大津を処刑したことにより、後ろめたさを感じていたのか、持統天皇は大津皇子を二上山に移葬します。

『薬師寺縁起』には大津が死後悪龍となって雲にのぼり、毒

を吐いて天下を混乱させたとなりますので、大津は死後、怨霊になったと恐れられたのでしょう。

大津皇子の屍を葛城の二上山に移葬した時も、大伯皇女は追悼歌を詠んでいます。

うつそみの人なる我や明日よりは二上山を弟と我が見む

(巻二―一六五)

大伯皇女は都に帰ったものの居場所も無かったので、名張に夏見寺を建て、ここで生涯を終えたとも伝えられています。

では初めに戻って、薬師寺になぜ大津皇子を祭神とする若宮社があるのかを考えてみると、薬師寺は元は天武天皇が皇后の病氣平癒を祈願して、現在の橿原市城殿町に建立した寺で、平城京に遷都した折に、今の地に移されたのです。悪霊となった大津を鎮魂するには父天皇ゆかりの寺に祀れば、おさまると考えたからかもしれません。

大津皇子のお墓は二上山麓の加守か鳥谷口にかつてはあったそうですが、現在は二上山雄岳の山頂に建てられています。明治天皇の勅命だったそうです。

明日香村の高台に行けば、二上山の美しい山姿が西に見えます。夕陽が二上山に沈む時などは一層みやびで目が離せません。悲劇の皇子は何時しか西の守り神になって鎮座されておられるのでしよう。

大伯皇女のようにこれから毎日、二上山を大津皇子と違って眺めてみましょう。

なもでおど

南無天踊り

雨をたんもれ 雨たもれ

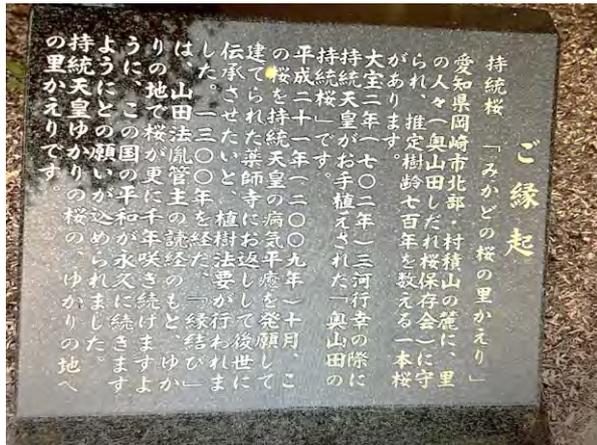
塩川千月

南無天踊りについて、何の知識もないまま入会しました。

練習日に初めて稽古を通して見て、歌詞にグッと来たり、踊りに圧倒されたり、心を揺さぶられました。私は歌を担当することになったので、カセットテープを繰り返し流し、一緒に歌ってみながら覚えめました。私が住む平田では松明を持って、岳参りをしたとのこと。歌詞にある「雨をたんもれ 雨たもれ」と皆で唱えながらお参りしたので

しようか。想像すると、とても幻想的な光景に思えます。歌の間違うと、踊りも笛も狂ってしまい、ちぐはぐになってしまっているので、常に緊張感を持って臨んでいます。いつもうまくいくわけではなく、失敗もあります。入会して三年目になります。今はカセットテープがのびて、少しスローテンポになったのを聴きながら歌っています。これからも末永く、楽しく南無天踊りを続けていきたいと思っています。

編集だより



ご縁起

愛知県岡崎市北部・村積山の麓に、里の人々(奥山田しだれ桜保存会)に守られ、推定樹齢七百年を数える一本桜があります。大宝二年(七〇二年)三河行幸の際に持統天皇がお手植えされた「奥山田の持統桜」です。平成二十一年(二〇〇九年)十月、この桜を持統天皇の病氣平癒を発願して建てられた華師寺にお返しして後世に伝承させたいと、植樹法要が行われました。二〇〇〇年を経た、「縁結び」の地で桜が更に千年咲き続けますように、この国の平和が永久に続きますようにとの願いが込められました。持統天皇ゆかりの桜の、ゆかりの地への里かへりです。

大森亮尚先生へ

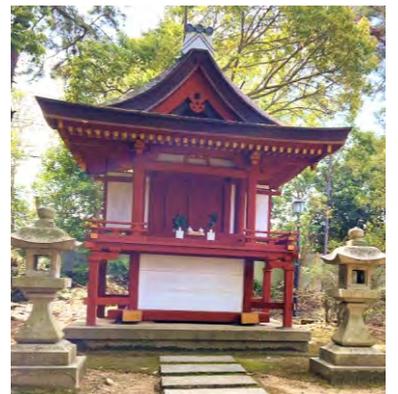
御寄稿戴きまして有難う御座います。万葉朗唱は薬師寺を拝観致しました。今後は若宮社・龍王社を朗唱の拠りどころに致します。(令和六年五月二日)

薬師寺「興楽門」内、北拝観受付の右側に、「持統桜」が有ります。

持統桜(説明碑の原文掲載)

ご縁起

持統桜 「みかどの桜の里かえり」
愛知県岡崎市北部・村積山の麓に、里の人々(奥山田しだれ桜保存会)に守られ、推定樹齢七百年を数える一本桜があります。大宝二年(七〇二年)三河行幸の際に持統天皇がお手植えされた「奥山田の持統桜」です。平成二十一年(二〇〇九年)十月、この桜を持統天皇の病氣平癒を発願して建てられた薬師寺にお返しして後世に伝承させたいと、植樹法要が行われました。千三百年を経た、「縁結び」は、山田法胤管主の読経のもと、ゆかりの地で桜が更に千年咲き続けますように、この国の平和が永久に続きますようにとの願いが込められました。持統天皇ゆかりの桜の、ゆかりの地への里かへりです。



若宮社・南門内西の奥



龍王社・南門内東奥の角

令和六年五月二日 勝川京子撮影

南無天踊りの公演予定は、下のコードをスマホのカメラで読み取ってご覧ください。



「伝承あすか」第二十七号
発行 令和六年五月
明日香村伝承芸能保存会
会長 脇田初枝
編集 明日香村伝承芸能保存会
題字 「伝承あすか」勝川喜昭書